

むさしの TALK

“武蔵野”の名にふさわしく いつまでも緑あるまちで!

水森亜土さん

長年武蔵野市に住み、武蔵野の風景を愛してきた水森亜土さん。
変わりゆくまちを見てきたからこそ言える、武蔵野市への思いとは。



水森亜土(みずもりあど)

歌いながら、透明アクリルボードに両手で絵を描く「歌のおねえさん」としてデビュー。「あどちゃん」の愛称で知られ、キュートなイラストで日本の「かわいい!」を発信してきた。画家・イラストレーターであり、今もジャズクラブでライブをこなす歌手でもある、マルチな才能を誇る。

PRESENT

今回取材した、水森亜土さんの直筆サイン本「水森亜土イラストレーション作品集 ADO MIZUMORI FOREVER」を抽選で5名様にプレゼント!詳しくは本誌折り込みハガキをご覧ください。



私は日本橋室町生まれ。そこで24年間暮らして、結婚を機に武蔵野市に移り住みました。引越した日のことは、今でもとてもよく覚えています。同じ東京でも、武蔵野市はとても遠いところにあると思っていたので、お昼休憩用に手作りのお弁当を持って、父が運転する車に乗りました。ところがあつという間に着いてしまつて、本当にびっくり。日本橋からこんなに近いのに、家のそばには竹林やとても良い香りを届けてくれる梅林があつてすっかり気に入り、それ以来ずっと武蔵野市に住んでいます。

でも大好きだつた竹林や梅林、たくさんあつた緑の風景が、年々ビルに取つて代わられて少なくなつてしまつたのは残念でなりません。今は家の庭にひっそりと咲く梅を楽しんでいます。緑をなくしたら「武蔵野市」という緑を思い起こさせる名前が似合わなくなつてしまうから、緑を減らす開発はダメ!というのが、私の本音です。子どもころ商業地の殺風景な場所で育つたせいか、緑が大好きなので、時間があると植物の姿を求めて、小さな公園や緑道を犬の散歩がてら巡っています。



取材当日のジャズライブの様子